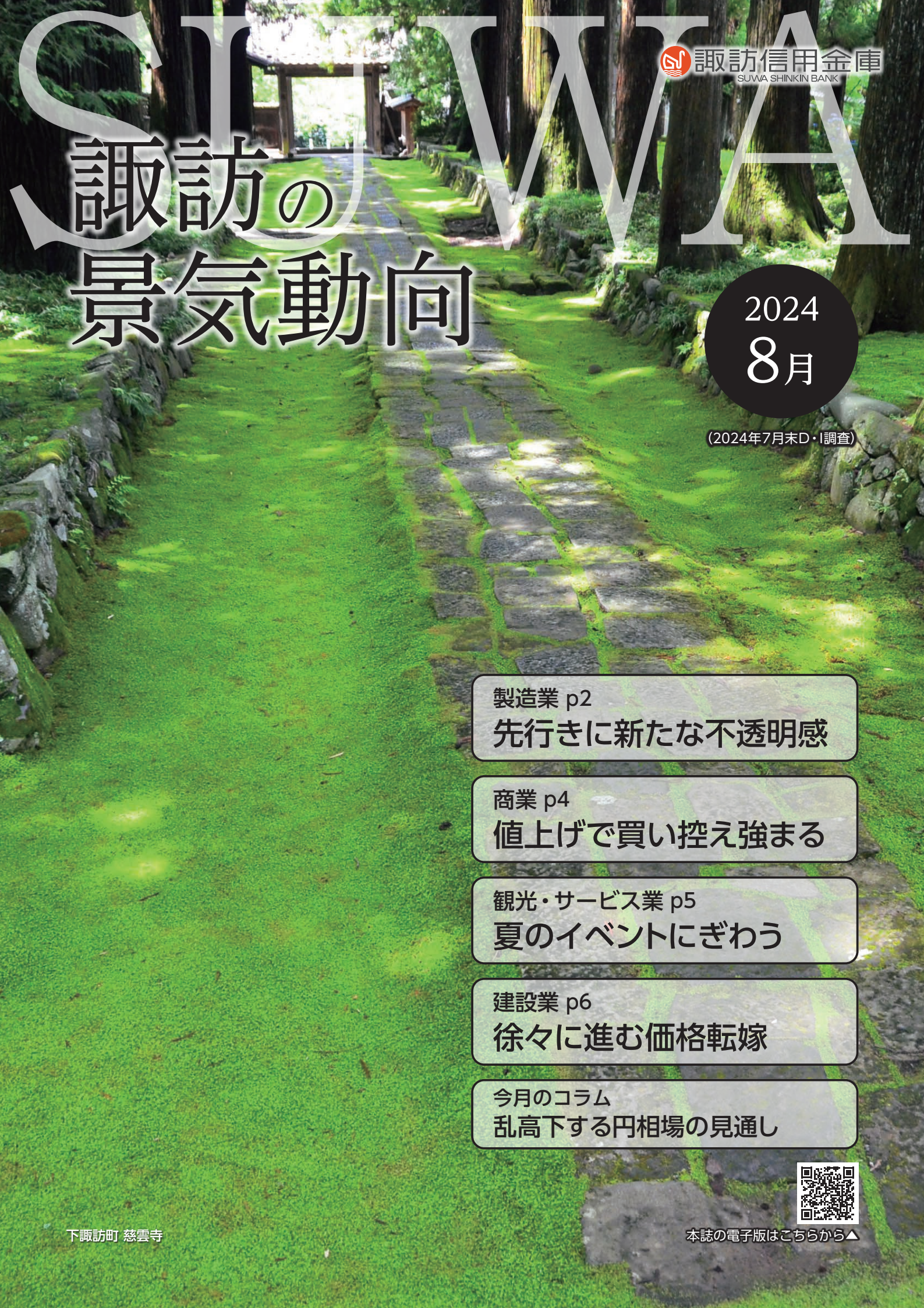




諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

諏訪の 景気動向

2024
8月

(2024年7月末D・I調査)

製造業 p2

先行きに新たな不透明感

商業 p4

値上げで買い控え強まる

観光・サービス業 p5

夏のイベントにぎわう

建設業 p6

徐々に進む価格転嫁

今月のコラム

乱高下する円相場の見通し



CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2024年7月の状況	9
●材料・電気等コスト	9
●価格転嫁	9
●賃金	10
●自社の業況	10
●収益性	11
●労働力（パート含む）	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「乱高下する円相場の見通し」	13

お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様に横ばいの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横ばいの時。

概況

2024年7月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

諏訪地方161社のご協力で行った2024年7月の「景気動向調査 (DI調査)」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが△4.9で、前回調査時 (2024年4月末、以下同) の3.3から、8.2ポイント悪化した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△4.7で、前回の△2.9から悪化した。また、非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同DIは△5.4で、前回の15.3から悪化した。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の12.8から10.4へやや悪化した。非製造業は11.0で前回の△5.8から改善し、回答全社では10.6 (前回6.5) となった。

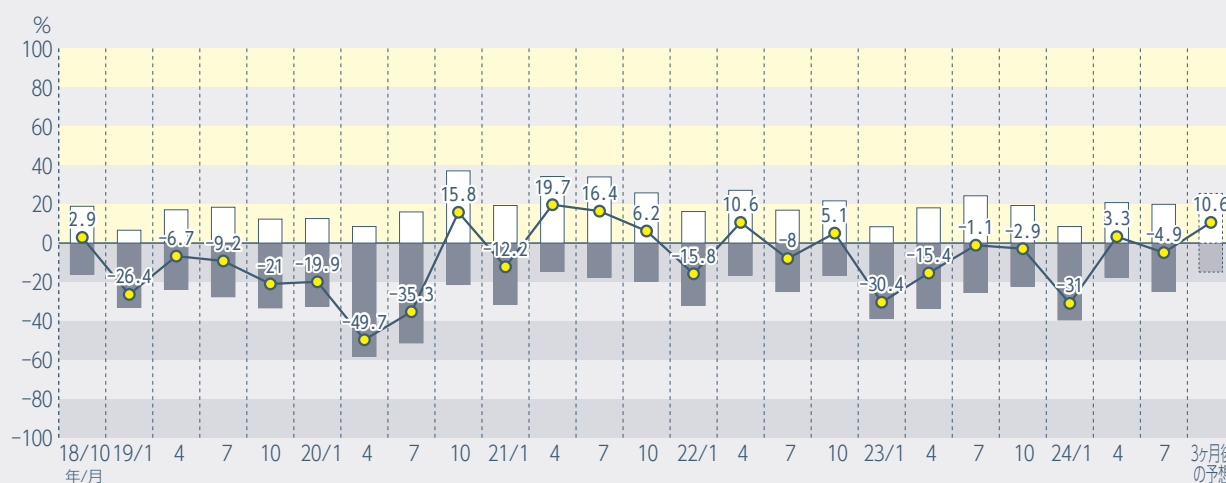
2024年7月は、新紙幣が20年ぶりに発行され、

市場では日経平均株価が終値として史上最高値を更新し、東証株価指数 (TOPIX) はバブル経済以来、約34年ぶりに史上最高値をつけた。また、パリ五輪が開幕し、諏訪市の光学機器メーカーに所属する選手が、総合馬術団体で92年ぶりにメダルを獲得した快挙が伝わった。梅雨は平年より短い日数だった。一方、月末に日銀が追加利上げを決定したことをきっかけに、金融市場が急変、株高・円安基調が一転した。国交省がトヨタに是正命令を出す動きもあり、原材料やエネルギー価格、人件費の上昇などに悩む諏訪地方の企業への影響が懸念されている。

●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答 企業	好転	横這	悪化	D I	回答 企業	好転	横這	悪化	D I	回答 企業	好転	横這	悪化	D I
全 体	161	19.9	55.3	24.8	-4.9	161	17.4	45.3	37.3	-19.9	161	25.5	59.6	14.9	10.6
製 造 業	106	21.7	51.9	26.4	-4.7	106	17.9	41.5	40.6	-22.7	106	25.5	59.4	15.1	10.4
非 製 造 業	55	16.4	61.8	21.8	-5.4	55	16.4	52.7	30.9	-14.5	55	25.5	60.0	14.5	11.0
商 業	22	13.6	40.9	45.5	-31.9	22	22.7	31.8	45.5	-22.8	22	22.7	59.1	18.2	4.5
建 設 業	22	13.6	77.3	9.1	4.5	22	0.0	72.7	27.3	-27.3	22	13.6	72.7	13.6	0.0
観光・サービス業	11	27.3	72.7	0.0	27.3	11	36.4	54.5	9.1	27.3	11	54.5	36.4	9.1	45.4

●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

【好転】企業は前回の16.7%から21.7%へ増加したが、【悪化】企業も19.6%から26.4%へ増加した。材料やエネルギーコストは53.8%（前回41.2%）が上昇し、0.9%（前回2.9%）が低下で、増加傾向が続いている。価格転嫁は、10.4%が完了（前回6.9%）し、21.7%が転嫁不足（前回21.6%）としている。

3ヵ月後の予想

【好転】予想の企業は前回の27.5%から25.5%へ減少し、【悪化】予想の企業は前回の14.7%から15.1%へ増加した。材料やエネルギーコストは49.1%（前回52.9%）が上昇を予想し、低下予想は0.9%（前回2.0%）だった。価格転嫁は、17.9%（前回13.7%）が完了予想だが、27.4%（前回15.7%）が転嫁不足を予想した。

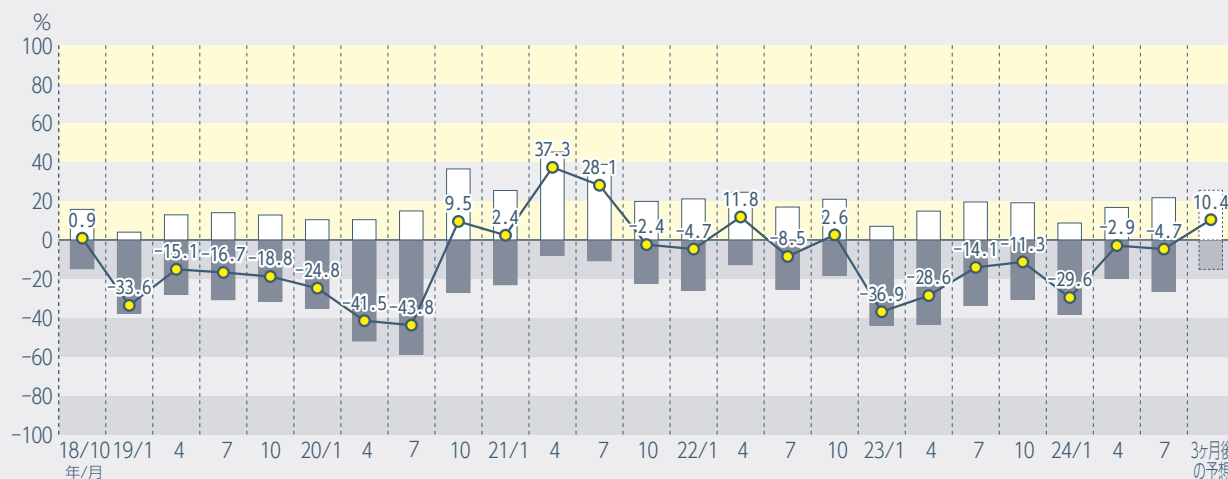
総体的な状況

自動車大手8社発表の2024年上半期の国内生産台数は、前年同期比10%減で、自動車の大量生産に必要な「型式指定」の認証不正拡大による生産停止が影響した。それでも下半期に向かい、認証不正問題は沈静化すると思われていたところ、新たにトヨタ自動車の現行生産4車種、過去モデル3車種の計7車種に是正命令が出され、懸念が再燃している。省力化機械関連は、比較的回復傾向の大手企業からの受注に対し、一般企業はまだ設備投資に対する様子見の傾向がある。すそ野が広い半導体関連は少しずつ回復状況が広がっている。ただ、原材料価格の上昇が収まらず、コストが増加する中で人件費が増加。8月の株価急落もあり、為替や金利の動向が注視されている。

企業のひとこと

- 中国からの輸入が大半であり、国際問題が非常に気になる（金属製品製造業）。
- 新紙幣の発行で、様々な分野で使用される紙幣計数機など、新紙幣対応に必要となる機械部品の受注が好調に推移している（一般機械製造業）。
- 受注内定から確定にかけて、受注量が下振れするケースが減ってきた。ただ、受注が回復しても人手が足りず、残業が増加。段取り替えや検査工程の自動化・省力化が急務の課題（輸送機械製造業）。
- 最低賃金引上げの影響は今後労務費に大きく影響してくる。人手不足の状況の中で賃金次第でパートや派遣の取り合いが想定される。諏訪地域内の大手製造業のパート社員の賃金水準は全国平均と比べても高い水準となっている（輸送機械製造業）。
- パリ五輪での欧州市場のカメラ需要を期待していたが、売上は予想を下回る結果だった。スマホのカメラの影響が強い（精密機械製造業）。

●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



製造業 受注状況

3ヵ月前との比較

受注状況DIは△7.6で、前回調査時の4.9から悪化した。規模別DIは、「1～29人企業」は△22.6で前回の7.4から大幅に悪化した。一方、「30～99人企業」は10.3で前回の0.0から改善した。「100人以上企業」は0.0で前回の6.7から悪化した。業種別（主要5業種）では、「一般機械」は0.0から△26.9、「輸送用機械」が55.6から△9.1、「精密機械」は11.1から△40.0と悪化し、「金属製品」が△12.9から△6.9、「電気機械」は△13.3から13.7へ改善した。自動車の認証不正の影響があったと見られる。

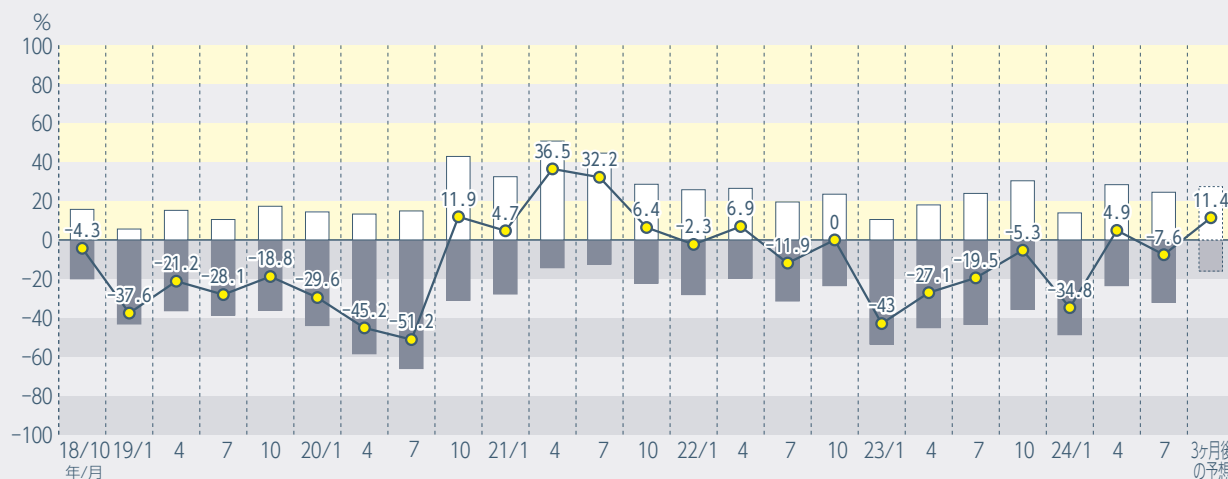
3ヵ月後の予想

製造業全体の受注予想DIは11.4で、前回の13.7からやや悪化した。規模別では「1～29人企業」が前回の11.1から7.5へやや悪化した。一方、「30～99人企業」は12.1から18.0へ改善、「100人以上企業」は26.7から7.1へ悪化した。業種別（主要5業種）では、「電気機械」は20.0から36.4、「一般機械」は△9.6から△3.9、「輸送用機械」は△11.1から9.1と改善し、「精密機械」が前回の22.2から△10.0、「金属製品」が25.8から10.3へ悪化した。回復傾向への転換が期待される一方で、新たな懸念材料が多い。

●業種別・規模別受注状況表

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	D I	回答企業	増加	不変	減少	D I	回答企業	増加	不変	減少	D I
製造業		106	24.5	43.4	32.1	-7.6	106	21.7	36.8	41.5	-19.8	106	27.4	56.6	16.0	11.4
規模	1～29人	53	17.0	43.4	39.6	-22.6	53	17.0	41.5	41.5	-24.5	53	26.4	54.7	18.9	7.5
	30～99人	39	35.9	38.5	25.6	10.3	39	28.2	30.8	41.0	-12.8	39	30.8	56.4	12.8	18.0
	100人～	14	21.4	57.1	21.4	0.0	14	21.4	35.7	42.9	-21.5	14	21.4	64.3	14.3	7.1
中分類	金属製品製造業	29	27.6	37.9	34.5	-6.9	29	17.2	48.3	34.5	-17.3	29	31.0	48.3	20.7	10.3
	一般機械製造業	26	23.1	26.9	50.0	-26.9	26	19.2	34.6	46.2	-27.0	26	19.2	57.7	23.1	-3.9
	電気機械器具製造業	22	27.3	59.1	13.6	13.7	22	31.8	27.3	40.9	-9.1	22	36.4	63.6	0.0	36.4
	輸送用機械器具製造業	11	18.2	54.5	27.3	-9.1	11	27.3	36.4	36.4	-9.1	11	27.3	54.5	18.2	9.1
	精密機械器具製造業	10	0.0	60.0	40.0	-40.0	10	20.0	20.0	60.0	-40.0	10	10.0	70.0	20.0	-10.0

●製造業：「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは△31.9で、前回の36.9から**大幅悪化**した。小売りなどは値上げで客単価は上昇したものの、消費者の**節約意識の強まりが購入点数の減少を招き**、売上が減少している。また、材料コストは低下した企業がなく、77.3% (前回73.7%) が増加した。依然、仕入れ価格の高騰がネックとなっている。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは、「好転」予想の企業が、「悪化」予想の企業を上回り、**前回の△5.2から4.5へ改善**した。原材料などのコストは減少する予想の企業はなく、依然68.2%が上昇を予想している。ただ、価格転嫁不足とする企業が3ヵ月前の22.7%から13.6%へ減少した。

■スーパー

総体的に来店客数は減少傾向だが、猛暑の影響で冷菓品の売れ行きは好調。夏野菜は家庭栽培が増え、売れにくくなっている。

■自動車販売

諏訪地方の7月の車庫証明件数は1,007件で、前年同月比156件、18.3%増加した。

■生花店

生花と喫茶や美容、アパレルなど異業種とコラボした出店モデルが地方でも浸透してきている。

■飲食店

来店客数は、夏休み効果で増加した店と、値上げで増益も減少した店がある。いずれも落ち着いた食材の値上がりが課題となっている。

■コンビニ

消費者の節約志向が強まり、商品の売れ残り回避に注力する店舗が多い。

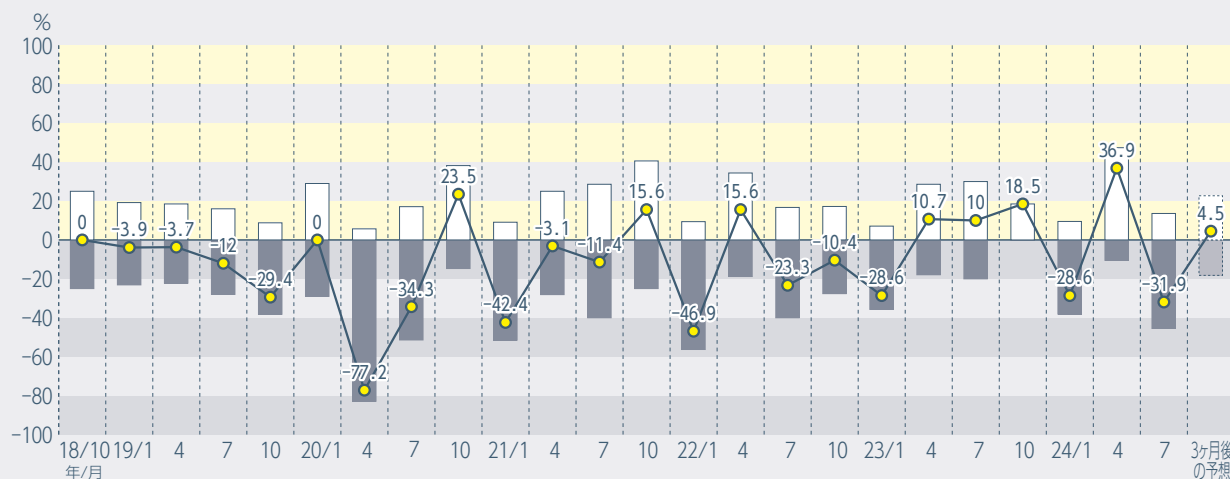
■靴店

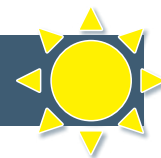
ブームの「スケッチャーズタイプ」やサンダル、スニーカーの売行きが好調に推移している。

企業のひとこと

- 近隣店舗の状況を見ても、物価高騰や猛暑の影響で、外食する機会が減少しているように感じる (飲食店)。
- 強気の値上げを続けてきたが、お客様の予算と合わないことが増えた。値上げはしなければならなかったが、顧客離れが次の課題 (飲食店)。
- 今年の盆休みはカレンダーの並びから大型連休になるため、売上増加を見込んでいる。比較的農作物の品質は良好。猛暑の影響よりもゲリラ豪雨のような短時間での集中豪雨による被害が怖い (野菜直売所)。
- 以前は団体客の来訪が多かったため、季節食材の選定や施設内の温度管理、降雨対策などに気を使ったが、コロナ禍を経て団体客そのものが少なくなり考えることが減った。暑さ凌ぎやトイレ利用のみなどの利用も目立ち、お土産の売上には大きな伸びは見られない (ドライブイン)。

●商業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





前年同期との比較

前回と比べ、業況判断DIは23.1から27.3へやや改善した。45.5%の企業が前年より客単価が上昇している。一方で、材料等のコストは低下した企業がなく、54.5%の企業が上昇している。夏休みシーズンに入り、学校関連の合宿などが回復し、コロナ禍で低調だった宴会需要も増加してきた。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは45.4で、54.5%の企業が改善を予想している。一方で、材料等のコストは低下を予想する企業がなく、72.7%がさらに上昇を予想している。宿泊料金の値上げなどで客数の減少も見られるが、8月以降の予約状況は好調な施設が多い。団体旅行も徐々に回復してきている。

■上諏訪温泉

諏訪湖温泉旅館組合加盟14施設総体の7月の客室稼働率は79.4%（前年は77.8%）だった。霧ヶ峰方面のニッコウキスゲが近年になく順調に咲いたことや、サマーナイト花火が始まったことから、各施設好調に推移し、宿泊人数及び客室稼働率も前年を上回った。インバウンドは全体の約6%を占める。

■下諏訪温泉

ビジネス関連の素泊まり需要が増加し、インバウンド需要も引き続き好調に推移している。

■蓼科・白樺湖・富士見高原

夏季シーズンに入った3連休が雨天でスタートが遅れた。昨年はコロナ明け初めてのシーズンだったこともあり、売上は前年を下回る宿泊施設、飲食店が多かった。蓼科湖周辺でも日中は30度を超える日が続いている。

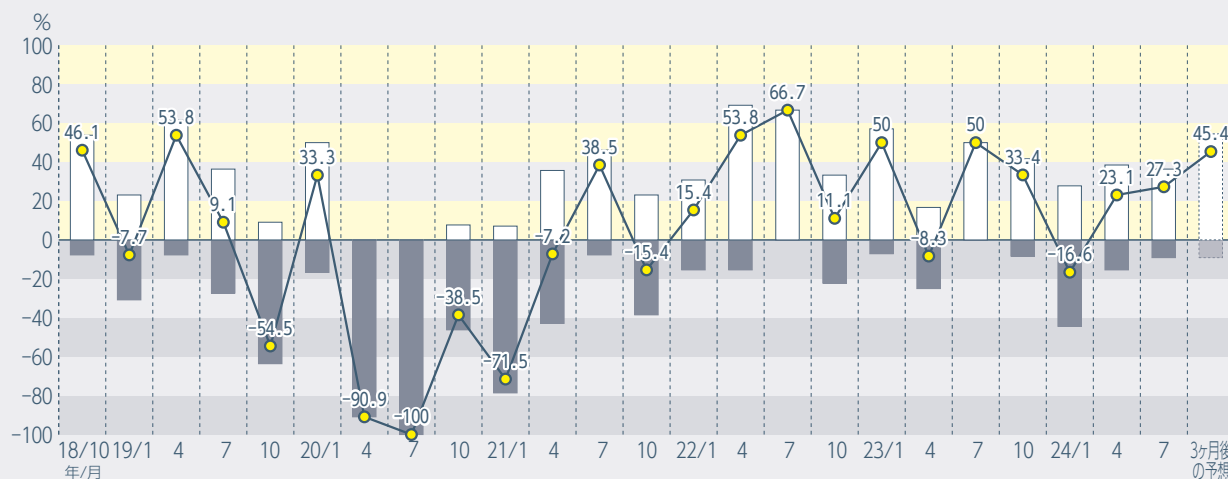
■諏訪大社

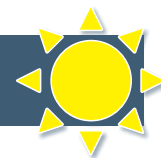
上社・下社合わせた7月の参拝者数は、約77,000人だった。前年同月比約11,000人、12.2%減少した。

企業のひとこと

- インバウンド需要の増加で、地域や時期によっては観光バス、ホテルの手配が追いつかない状況が発生している。為替の動向が急激な円高に動いてきているので、海外旅行需要の回復に期待する。一方で、インバウンド需要への影響も心配（旅行代理店）。
- 株式市場、為替の動向が目まぐるしく変化しており心配。特に為替はインバウンド需要に影響してくることから注視している（旅館）。
- 近年の猛暑で、避暑地でも外出を控える動きがある。湖周辺を徒歩や自転車で散策する観光客が昨年より少ない気がする（観光施設）。
- トップシーズンの予約状況は好調。ただ、最近はコロナ感染が理由の直前キャンセルがチラホラある（旅館）。

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは「好転」が13.6%、「悪化」が9.1%の4.5となり、**前回の△10.0から改善**した。ただ、収益性DIは△9.1で、「悪化」が「好転」を上回り、マイナス水準となっている。建設資材の高騰に対し、価格転嫁は13.6%（前回5.0%）が「完了」し、4.5%（前回20.0%）が「転嫁不足」とした。

3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは「好転」「悪化」とも13.6%の0.0で、前回の△15.0から改善した。材料等のコスト上昇は減少予想の企業がなく、31.8%が上昇を予想している。価格転嫁は、「完了」が9.1%（前回5.0%）、「不足」4.5%（前回10.0%）で、**徐々に価格転嫁が進む予想**が増えている。

6月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は118戸で、前年同月比52戸増加（78.7%）した。持家は1戸減少の51戸、貸家は50戸増加の54戸、分譲は3戸増加の13戸だった。2024年4月～6月の累計着工戸数は304戸で、前年同期比99戸増加（48.2%）した。長野県全体は995戸で、前年同月比6.2%減少した。

7月の諏訪地方市町村からの受注状況

土木・水道工事48件771百万円、その他工事21

件340百万円の合計69件1,111百万円だった。前年同月比で、19件650百万円減少（△36.9%）した。

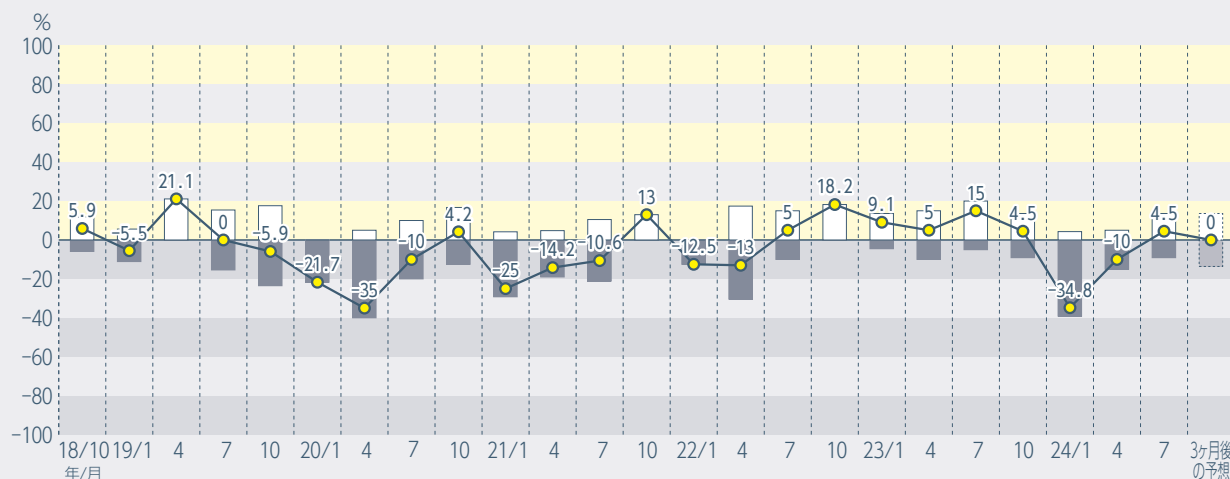
7月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計13件1,247百万円で、前年同月比で件数は7件増加し、契約金額は772百万円増加（162.7%）した。2024年4月～7月の累計は、35件3,884百万円だった。前年同期比で件数は5件増加し、契約金額も1,953百万円増加（101.2%）した。

企業のひとこと

- 移住希望者に人気高い地域では、首都圏からの問い合わせが多い。受注に対して人手不足感は依然として強い。
- 公共工事は、圏外含めて入札参加業者が増え、くじ引きの運頼りになってきている。
- 諏訪地域の仕事が少ないため遠方の工事を受注するのは良いが、経費（高速、ガソリン、残業代等）がかさみ、利益を圧迫してしまう。
- 建設費の上昇で発注者が慎重になり、契約に至るまでの交渉が厳しくなっている。
- 建設を志す若者が、ここまで少なくなるとは思っていなかった。昔は製造業の工場も3Kだったが、今はかなり改善されている。建設は改善したくてもできない事情がある。

建設業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



収益性状況

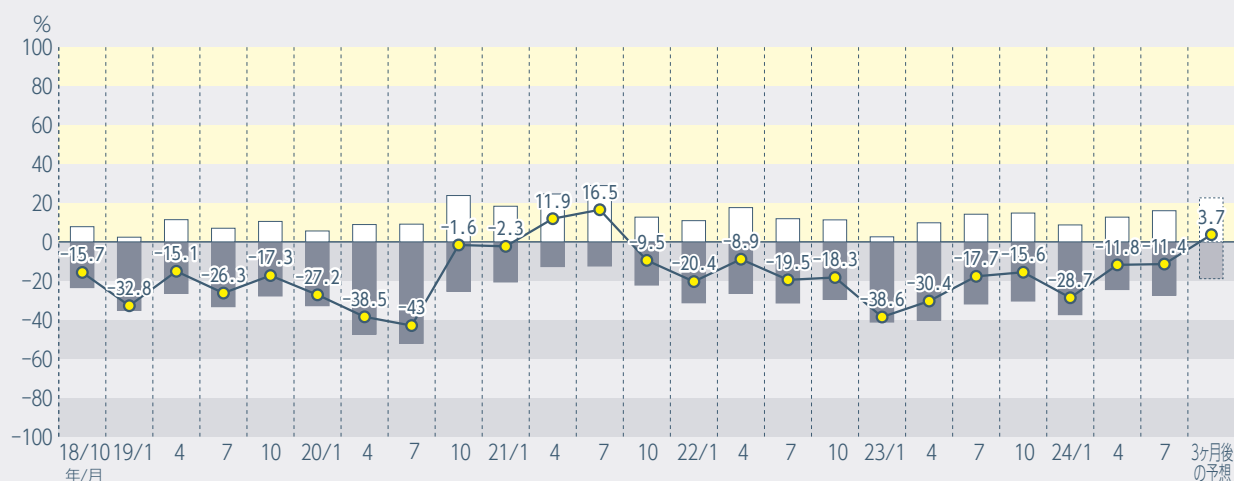
3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」企業14.3%、「悪化」企業24.8%の△10.5で、前回調査時の△5.9から悪化した。製造業は△11.4で、依然水面下で前回の△11.8と同様に推移した。材料やエネルギー高、賃金上昇など収益を圧迫する要因が継続している。非製造業は、前回プラス水準に改善した商業が再び低下し、建設業もマイナス水準で推移した。観光・サービス業は「悪化」企業がなかった。

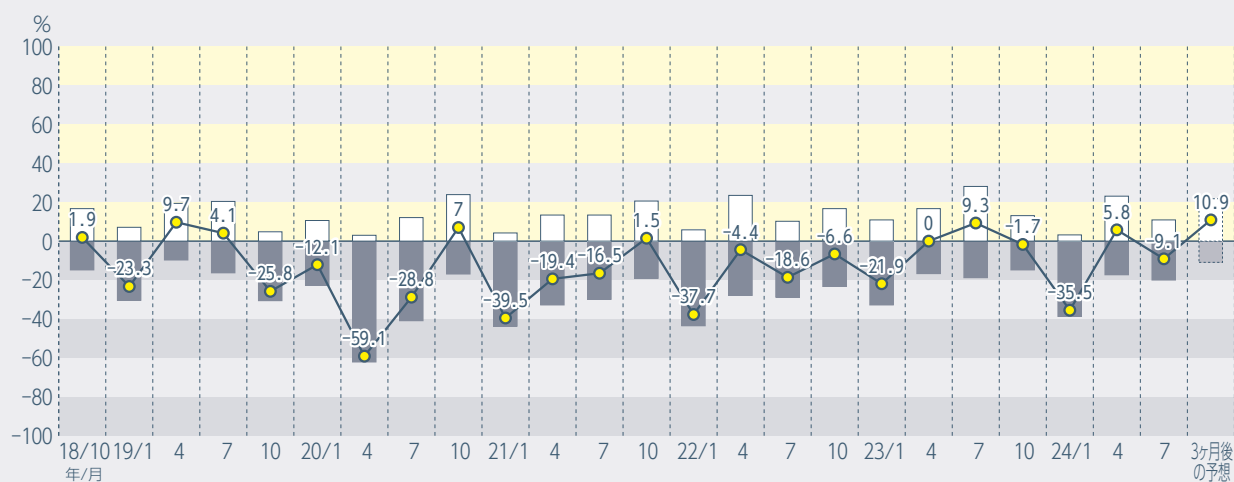
3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは6.3で、前回の0.0から改善した。製造業は3.7で前回の4.0からやや悪化した。非製造業は10.9で前回の△7.7から改善した。商業が13.7で好転予想の企業が増え、秋の観光シーズンに入る観光・サービス業も27.3で、「悪化」予想はあるものの、インバウンドの増加などで引き続き好調が予想される。建設業は0.0で、横ばい予想が多い。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



雇用状況

2024年6月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.05ポイント下回り、前月を0.02ポイント上回る1.25倍だった。**18ヵ月連続で前年同月を下回った。**県内は前月比0.04ポイント低下の1.31倍、全国は前月から0.01ポイント低下の1.23倍だった。全国の完全失業率は、前月比0.1ポイント低下の2.5%だった。全国的に、物価高が家計を圧迫して求職者が増える一方、**原材料費や光熱費の上昇を背景に、製造業や建設業では求人を抑える動き**がある。

諏訪地方は、新規求人数が1,254人で、前年同月比323人減少（△20.5%）し、15ヵ月連続で前年同月を下回った。新規求職者数は551人で、前年同月比137人減少（△19.9%）した。産業別の前年同月比の新規求人数は、金融・保険・不動産業が92.9%増加し、飲食店・宿泊業が△70.2%、製造業が△9.7%、医療・福祉が△20.7%、その他サービス業が△28.8%と減少した。

経営上の課題 (3つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業は労働力確保と売上減少、人件費③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は労働力確保と人件費だった。

「労働力確保」が依然、全業種の課題の上位に上る一方で、製造業をはじめ、「売上減少」が主な課題となる企業が増加している。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	81	60	11	5	5
単 価 の 引 下 げ	8	7	0	1	0
競 争 激 化	28	14	8	4	2
資 金 繰 り	36	24	8	1	3
人 件 費	57	35	11	4	7
労 働 力 確 保	98	56	15	20	7

諏訪地方主要経済指標

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【6月】ハローワーク諏訪管内		1.25倍	△0.05ポイント
国県公共工事【7月】 (税抜・地元企業受注分)	件 数	13件	7件
	金 額	1,247百万円	772百万円
6市町村公共工事受注【7月】 (税抜・業務委託除く)	件 数	69件	△19件
	金 額	1,111百万円	△650百万円
車庫証明件数【7月】(諏訪地方合計)		1,007件	18.3%
新設住宅着工件数【2024年4月～6月(諏訪管内)】		304戸	48.2%

2024年7月の状況 (企業%) ●材料・電気等コスト ●価格転嫁

●材料・電気等コスト

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全 体		161	53.4	46.0	0.6	161	68.9	29.8	1.2	161	50.9	48.4	0.6
製 造 業		106	53.8	45.3	0.9	106	69.8	28.3	1.9	106	49.1	50.0	0.9
規 模	1～29人	53	56.6	41.5	1.9	53	69.8	26.4	3.8	53	54.7	45.3	0.0
	30～99人	39	51.3	48.7	0.0	39	71.8	28.2	0.0	39	51.3	46.2	2.6
	100人～	14	50.0	50.0	0.0	14	64.3	35.7	0.0	14	21.4	78.6	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	29	62.1	37.9	0.0	29	72.4	27.6	0.0	29	44.8	55.2	0.0
	一般機械 製造業	26	38.5	61.5	0.0	26	53.8	42.3	3.8	26	57.7	42.3	0.0
	電気機械器具 製造業	22	59.1	40.9	0.0	22	86.4	13.6	0.0	22	40.9	59.1	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	63.6	36.4	0.0	11	72.7	27.3	0.0	11	54.5	45.5	0.0
	精密機械器具 製造業	10	40.0	50.0	10.0	10	60.0	30.0	10.0	10	50.0	50.0	0.0
非 製 造 業		55	52.7	47.3	0.0	55	67.3	32.7	0.0	55	54.5	45.5	0.0
商 業		22	77.3	22.7	0.0	22	72.7	27.3	0.0	22	68.2	31.8	0.0
建 設 業		22	36.4	63.6	0.0	22	68.2	31.8	0.0	22	31.8	68.2	0.0
観光・サービス業		11	36.4	63.6	0.0	11	54.5	45.5	0.0	11	72.7	27.3	0.0

●価格転嫁

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	完了	不変	不足	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	完了	不変	不足
全 体		161	14.3	66.5	19.3	161	24.2	57.1	18.6	161	19.3	59.0	21.7
製 造 業		106	10.4	67.9	21.7	106	22.6	54.7	22.6	106	17.9	54.7	27.4
規 模	1～29人	53	11.3	64.2	24.5	53	22.6	52.8	24.5	53	17.0	52.8	30.2
	30～99人	39	10.3	69.2	20.5	39	23.1	56.4	20.5	39	23.1	53.8	23.1
	100人～	14	7.1	78.6	14.3	14	21.4	57.1	21.4	14	7.1	64.3	28.6
中 分 類	金属製品 製造業	29	10.3	69.0	20.7	29	20.7	62.1	17.2	29	24.1	55.2	20.7
	一般機械 製造業	26	7.7	69.2	23.1	26	15.4	61.5	23.1	26	19.2	50.0	30.8
	電気機械器具 製造業	22	18.2	59.1	22.7	22	31.8	31.8	36.4	22	13.6	54.5	31.8
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	72.7	18.2	11	27.3	54.5	18.2	11	18.2	54.5	27.3
	精密機械器具 製造業	10	10.0	70.0	20.0	10	30.0	50.0	20.0	10	10.0	70.0	20.0
非 製 造 業		55	21.8	63.6	14.5	55	27.3	61.8	10.9	55	21.8	67.3	10.9
商 業		22	31.8	45.5	22.7	22	40.9	40.9	18.2	22	31.8	54.5	13.6
建 設 業		22	13.6	81.8	4.5	22	13.6	81.8	4.5	22	9.1	86.4	4.5
観光・サービス業		11	18.2	63.6	18.2	11	27.3	63.6	9.1	11	27.3	54.5	18.2

2024年7月の状況 (企業%) ●賃金 ●自社の業況

●賃金

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全 体		161	40.4	55.9	3.7	161	60.2	36.0	3.7	161	18.6	78.3	3.1
製 造 業		106	43.4	53.8	2.8	106	66.0	32.1	1.9	106	12.3	85.8	1.9
規 模	1～29人	53	37.7	56.6	5.7	53	62.3	34.0	3.8	53	5.7	90.6	3.8
	30～99人	39	43.6	56.4	0.0	39	64.1	35.9	0.0	39	23.1	76.9	0.0
	100人～	14	64.3	35.7	0.0	14	85.7	14.3	0.0	14	7.1	92.9	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	29	34.5	58.6	6.9	29	55.2	41.4	3.4	29	10.3	89.7	0.0
	一般機械 製造業	26	53.8	42.3	3.8	26	65.4	30.8	3.8	26	11.5	80.8	7.7
	電気機械器具 製造業	22	54.5	45.5	0.0	22	63.6	36.4	0.0	22	13.6	86.4	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	45.5	54.5	0.0	11	90.9	9.1	0.0	11	9.1	90.9	0.0
	精密機械器具 製造業	10	30.0	70.0	0.0	10	60.0	40.0	0.0	10	10.0	90.0	0.0
非 製 造 業		55	34.5	60.0	5.5	55	49.1	43.6	7.3	55	30.9	63.6	5.5
商 業		22	40.9	54.5	4.5	22	45.5	45.5	9.1	22	40.9	54.5	4.5
建 設 業		22	27.3	68.2	4.5	22	59.1	36.4	4.5	22	13.6	81.8	4.5
観光・サービス業		11	36.4	54.5	9.1	11	36.4	54.5	9.1	11	45.5	45.5	9.1

●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		161	19.9	55.3	24.8	-4.9	161	17.4	45.3	37.3	-19.9	161	25.5	59.6	14.9	10.6
製 造 業		106	21.7	51.9	26.4	-4.7	106	17.9	41.5	40.6	-22.7	106	25.5	59.4	15.1	10.4
規 模	1～29人	53	13.2	54.7	32.1	-18.9	53	13.2	41.5	45.3	-32.1	53	22.6	60.4	17.0	5.6
	30～99人	39	35.9	41.0	23.1	12.8	39	23.1	38.5	38.5	-15.4	39	33.3	53.8	12.8	20.5
	100人～	14	14.3	71.4	14.3	0.0	14	21.4	50.0	28.6	-7.2	14	14.3	71.4	14.3	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	29	27.6	37.9	34.5	-6.9	29	13.8	48.3	37.9	-24.1	29	24.1	51.7	24.1	0.0
	一般機械 製造業	26	15.4	50.0	34.6	-19.2	26	7.7	50.0	42.3	-34.6	26	19.2	65.4	15.4	3.8
	電気機械器具 製造業	22	27.3	59.1	13.6	13.7	22	27.3	40.9	31.8	-4.5	22	40.9	59.1	0.0	40.9
	輸送用機械 器具製造業	11	18.2	63.6	18.2	0.0	11	27.3	36.4	36.4	-9.1	11	27.3	54.5	18.2	9.1
	精密機械器具 製造業	10	0.0	80.0	20.0	-20.0	10	20.0	20.0	60.0	-40.0	10	10.0	70.0	20.0	-10.0
非 製 造 業		55	16.4	61.8	21.8	-5.4	55	16.4	52.7	30.9	-14.5	55	25.5	60.0	14.5	11.0
商 業		22	13.6	40.9	45.5	-31.9	22	22.7	31.8	45.5	-22.8	22	22.7	59.1	18.2	4.5
建 設 業		22	13.6	77.3	9.1	4.5	22	0.0	72.7	27.3	-27.3	22	13.6	72.7	13.6	0.0
観光・サービス業		11	27.3	72.7	0.0	27.3	11	36.4	54.5	9.1	27.3	11	54.5	36.4	9.1	45.4

2024年7月の状況 (企業%) ●収益性 ●労働力 (パート含む)

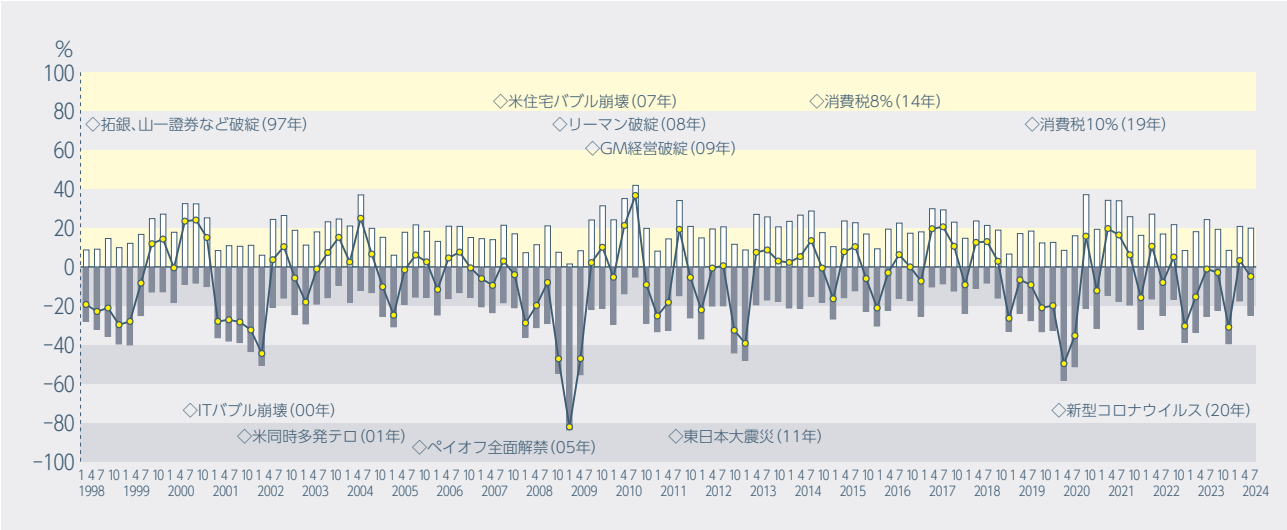
●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		161	14.3	60.9	24.8	-10.5	161	17.4	46.6	36.0	-18.6	161	22.4	61.5	16.1	6.3
製 造 業		106	16.0	56.6	27.4	-11.4	106	18.9	44.3	36.8	-17.9	106	22.6	58.5	18.9	3.7
規 模	1～29人	53	9.4	54.7	35.8	-26.4	53	17.0	41.5	41.5	-24.5	53	20.8	54.7	24.5	-3.7
	30～99人	39	25.6	56.4	17.9	7.7	39	23.1	46.2	30.8	-7.7	39	25.6	61.5	12.8	12.8
	100人～	14	14.3	64.3	21.4	-7.1	14	14.3	50.0	35.7	-21.4	14	21.4	64.3	14.3	7.1
中 分 類	金属製品 製造業	29	13.8	55.2	31.0	-17.2	29	17.2	55.2	27.6	-10.4	29	24.1	55.2	20.7	3.4
	一般機械 製造業	26	7.7	57.7	34.6	-26.9	26	11.5	50.0	38.5	-27.0	26	19.2	53.8	26.9	-7.7
	電気機械器具 製造業	22	22.7	59.1	18.2	4.5	22	27.3	36.4	36.4	-9.1	22	27.3	68.2	4.5	22.8
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	54.5	36.4	-27.3	11	18.2	36.4	45.5	-27.3	11	18.2	45.5	36.4	-18.2
	精密機械器具 製造業	10	20.0	50.0	30.0	-10.0	10	20.0	30.0	50.0	-30.0	10	20.0	70.0	10.0	10.0
非 製 造 業		55	10.9	69.1	20.0	-9.1	55	14.5	50.9	34.5	-20.0	55	21.8	67.3	10.9	10.9
商 業		22	13.6	54.5	31.8	-18.2	22	22.7	36.4	40.9	-18.2	22	27.3	59.1	13.6	13.7
建 設 業		22	9.1	72.7	18.2	-9.1	22	0.0	59.1	40.9	-40.9	22	9.1	81.8	9.1	0.0
観光・サービス業		11	9.1	90.9	0.0	9.1	11	27.3	63.6	9.1	18.2	11	36.4	54.5	9.1	27.3

●労働力 (パート含む)

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI
全 体		161	11.8	78.3	9.9	1.9	161	14.9	64.6	20.5	-5.6	161	6.8	90.1	3.1	3.7
製 造 業		106	14.2	78.3	7.5	6.7	106	12.3	68.9	18.9	-6.6	106	6.6	90.6	2.8	3.8
規 模	1～29人	53	7.5	86.8	5.7	1.8	53	11.3	69.8	18.9	-7.6	53	5.7	94.3	0.0	5.7
	30～99人	39	25.6	61.5	12.8	12.8	39	17.9	61.5	20.5	-2.6	39	7.7	84.6	7.7	0.0
	100人～	14	7.1	92.9	0.0	7.1	14	0.0	85.7	14.3	-14.3	14	7.1	92.9	0.0	7.1
中 分 類	金属製品 製造業	29	13.8	82.8	3.4	10.4	29	13.8	75.9	10.3	3.5	29	6.9	93.1	0.0	6.9
	一般機械 製造業	26	11.5	76.9	11.5	0.0	26	7.7	65.4	26.9	-19.2	26	3.8	92.3	3.8	0.0
	電気機械器具 製造業	22	18.2	72.7	9.1	9.1	22	18.2	63.6	18.2	0.0	22	9.1	81.8	9.1	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	18.2	81.8	0.0	18.2	11	9.1	81.8	9.1	0.0	11	0.0	100.0	0.0	0.0
	精密機械器具 製造業	10	10.0	90.0	0.0	10.0	10	10.0	70.0	20.0	-10.0	10	0.0	100.0	0.0	0.0
非 製 造 業		55	7.3	78.2	14.5	-7.2	55	20.0	56.4	23.6	-3.6	55	7.3	89.1	3.6	3.7
商 業		22	0.0	86.4	13.6	-13.6	22	18.2	50.0	31.8	-13.6	22	9.1	86.4	4.5	4.6
建 設 業		22	4.5	81.8	13.6	-9.1	22	18.2	63.6	18.2	0.0	22	0.0	95.5	4.5	-4.5
観光・サービス業		11	27.3	54.5	18.2	9.1	11	27.3	54.5	18.2	9.1	11	18.2	81.8	0.0	18.2

回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2024年7月。
- ②調査内容 「2024年7月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 161企業。
- ⑤回答率 64.4%

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	106	22	22	11	161

乱高下する円相場の見通し

株式会社小宮コンサルティング CEO
小宮 一慶氏



8月5日に日経平均株価が4451円という過去最大の下げ幅を記録し、31458円まで下げました。そして、一転、翌6日には前日比で3217円というこちらも過去最大の上げ幅を記録。乱高下したのです。

きっかけは、2日に発表された米国の雇用統計です。7月の失業率が前月より0.2%上昇の4.3%、世界中のエコノミストが注目する非農業部門の雇用増減数が、市場予想より大幅に少ない11万4千人と発表されました。その日はNYダウも610ドル下げました。

また、ドル・円レートも一時141円台までの円高に振れたのち、この原稿を書いている時点（8月15日）では147円台です。株価も3万6千円台を回復しています。

私は、この乱高下は一時的な動きだと思っています。今回の下げは、米景気への不安がきっかけですが、2008年のリーマンショックや2020年からのコロナショックのようなはっきりとした理由がないからです。リーマンショック時には、その前に普段なら住宅を買えないような人に貸し出す「サブプライムローン」による異常な住宅バブルが起こっていましたし、コロナショックは世界的なパンデミックによる経済停滞が原因でした。しかし、今回の株価急落はそのような大きな原因がありません。「不安」だけです。

株価下落、円高進行のきっかけは2日の米雇用統計の発表ですが、弱気筋が一気に株式やドルを売りしました。それが東京市場に伝播したのです。

機関投資家の中には、ある一定以上株価が下がると自動的に持ち株を売るプログラム売買を行うところがあり、それも下げを加速しました。

また、株式トレーダーは、通常S&P500やTOPICSなどの指数と自身のパフォーマンスを比較されます。市場が大幅下落する際には、どれだけ早く持ち株を売るかも勝敗の分かれ目で、それがさらに市場全体の売りを加速するという面もありました。

私は株式市場を分析する際には、企業の業績とともに、PER（株価収益率）を参考にしています。PERは株価を一株当たりの純利益で割ったものです。

今回の乱高下の直前では、日経平均採用銘柄全体で17倍程度でした。コロナ前は約14倍でしたから、コロナ前よりは上昇していましたが、コロナ明けの景気回復を考えれば、それほど過熱した水準ではありませんでした。

それが、日経平均が大幅下落した5日の終値で13倍台まで落ち込みました。これは売られ過ぎの水準です。6日には14倍台に戻しました。これでようやくコロナ前の水準です。15日には15倍台です。

米国経済はピークアウトしていますが、それでも8四半期連続実質GDPが増加しています。日本も絶好調ではないものの、4-6月までの景気はますますで、企業業績も全体的にはそこそこの水準だと私は分析しています。（表）

実質GDP（年率、%）

	日本	米国
2022年7-9月	-1.2	2.7
10-12月	1.7	2.6
2023年1-3月	5.2	2.2
4-6月	2.4	2.1
7-9月	-4.0	4.9
10-12月	0.3	3.4
2024年1-3月	-2.3	1.4
4-6月	3.1	2.8
	内閣府	商務省

ドル・円の相場も大きく動きました。一時160円だったのが20円近く円高に振れたのです。

これには、日米金利差による円キャリー取引とその巻き戻しが大きく影響していると言われています。キャリー取引とは、金利の低い円を借りてそれを売ってドルを買い、現状3ヶ月物で5%程度の金利が付く米ドルで運用し、金利を稼ぐ取引ですが、今回はキャリー取引を解消する動きが大量に起こったと考えられます。そのため大きく円高に振れたのです。

この円キャリーは日米金利差が大きな原動力です。日本では7月末の日銀の政策決定会合で、政策金利が0.25%まで引き上げられました。その後の市場の乱高下を受け内田日銀副総裁が「相場が落ち着くまでは利上げをしない」との発言がありました。次の政策決定会合は9月19日、20日なので、いずれにしてもそこまでには利上げはありません。現状2%強のインフレはなかなかしつこいと考えられるので、年末までにもう一度利上げがある可能性があります。

一方、米国は景気拡大のスピードに懸念のあることから9月の中央銀行の会合（FOMC）で0.25ないしは0.5%の利下げが行われる確率が高いと考えます。

こうしたことを考えれば、ドル・円相場は、もう少し円高に振れる可能性もあるでしょう。

いずれにしても、株式、為替相場ともに次第に落ち着いていくと考えますが、しばらくは相場が大きく振れる可能性もあることに注意が必要です。

諏訪信用金庫アプリ

ダウンロードはこちら→

スマートフォンから簡単に**新規口座開設**や**残高照会**、**入出金明細の確認**などができます。登録は無料です。



Download on the
App Store



GET IT ON
Google Play



諏訪信用金庫

SUWA SHINKIN BANK

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号
TEL 0266-23-4567
FAX 0266-24-4055



ホームページ



Instagram

「諏訪の景気動向」についての
ご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
TEL 0266-23-4567